

テーマ「私たちに求められること」

京都高等学校 上西 喬子

今年の七月十日、私は生まれて初めての投票を体験した。投票前には、選挙関連のニュースが気になり、新聞で様々な政党の掲げる公約を読んで比較したりした。実際に自分が参加できるから、今までの選挙とは気持ちの持ち方が全く違った。選挙当日、投票を終えると、何だか嬉しく、誇らしいような思いがした。

ところが、十八歳の投票率は意外に低かった。若者の政治意識は低いと報道されるのが残念だ。投票に行かなかった理由として、「政治についてよく分からない」、「投票してもどうせ若者の意見は反映されない」、といった理由を挙げる人が多い。確かに、日常生活で友人や家族と政治について話をする機会は少ない。しかし、私たちは投票に際して、専門家のように完璧に政治を理解することを求められているわけではないと思う。高校生の私たちになりて調べ、理解し投票することがまずは大切ではないか。私もそうだったが、投票後は選挙結果を受けて、「さらに政治や日本の抱える問題点を知りたい、考えたい」という気持ちが高まった。選挙に参加することにより、自分なりにもっと理解した上で投票したいという気持ちが芽生えるのだと思う。

また、若者が政治について関心が持てるような機会が欲しい。私は行橋市役所のインターンシップに参加し、市議会議員選挙の開票補助を体験した。この経験から政治や選挙への興味が増した。このように政治を身近に感じることができる場が必要だと思う。

私たちの意見は投票することによって政治に反映される。私たちにもっと政治意識を持ってほしいからこそ、選挙権が引き下げられたのだと思う。少子高齢社会である日本では高齢者向けの政策が行われがちである。しかし、日本の将来を担うのは私たちだ。今は政治との直接的な結びつきを感じにくいかもしれないが、将来自分がどんな社会で生活をしていきたいのかを想像してみるとどうだろう。私たちが無関心でいる間に様々な法案が可決されている。視線を国内だけでなく国際情勢にも向けなければならないと思うが、危機感のなさが政治意識の低さの一つの要因かもしれない。

以上のように、選挙やその結果を通して日本のこと、世界のこと、自分の将来のことなどを考えることができた。今後有権者の一人として、しっかりと選挙に参加していきたい。